

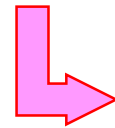
1 越前市の概要

(平成31年4月1日現在)

人口		82,754人	
外国籍人口		4,268人(5.2%)	
児童数		13,046人	
小学校	17校	中学校	7校
保育園・ 認定こども園	24園	幼稚園	9園

平成24年 越前市子ども条例制定

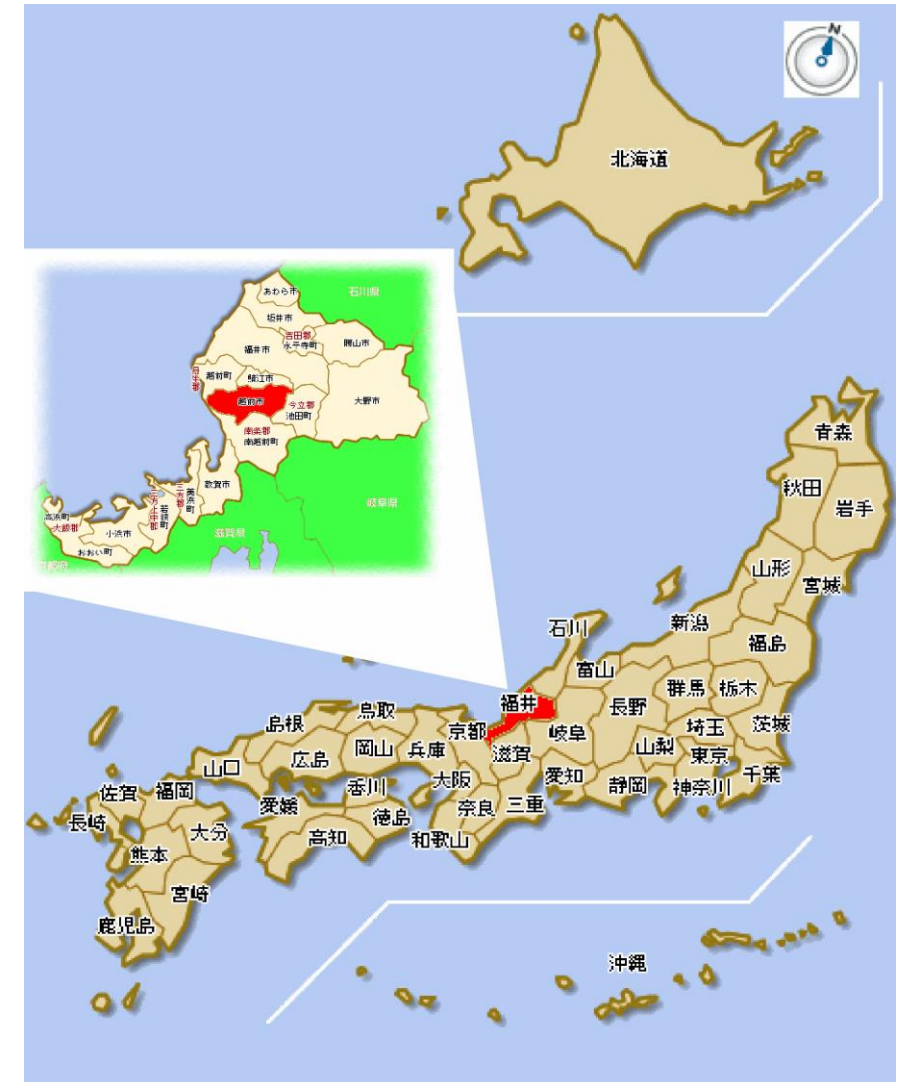
平成25年 子ども・子育て総合相談室を設置



家庭児童相談業務
児童発達支援センター業務
母子保健業務(兼務)

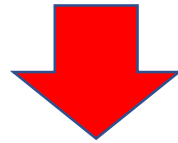
子どもや家庭に関する
相談窓口を一元化！

第11回子どもの貧困対策情報交換会 実践報告
越前市子ども福祉課 岩佐 奈智



2 子どもの未来応援計画策定の概要

子どもの未来応援計画 策定委員会
(越前市要保護児童対策地域協議会 代表者会議)



子どもの未来応援計画 ワーキンググループ

越前警察署	越前市社会福祉協議会
児童家庭支援センター 一陽	市教育振興課
市生涯学習課	市税務収納課
市建築住宅課（市営住宅担当）	市水道課（水道料金担当）
市社会福祉課（生活保護担当）	市健康増進課（母子保健担当）
市子ども福祉課（事務局）	

【構成機関】

地方法務局
県児童相談所
県保健所
越前警察署
医師会
市社会福祉協議会
市民生・児童委員連合会
県里親会
児童センター
保育研究会
特別支援学校
小中学校校長会
児童養護施設
児童家庭支援センター
子育て支援センター
人権擁護委員会
他、庁内関係部署

3 実態調査の概要

調査種類	調査対象	対象数	実施方法
(1) 子どもの生活に関する実態調査	年長の子どもがいる世帯 (保護者のみ)	約 7 0 0 世帯 (全数)	郵送配布回収 所属園にて配布回収
	小学 5 年生の子どもがいる世帯 (保護者・児童)	約 8 0 0 世帯 (全数)	郵送配布回収
	中学 3 年生の子どもがいる世帯 (保護者・児童)	約 8 0 0 世帯 (全数)	郵送配布回収
(2) 関係機関調査	小学校・中学校	2 4 校	紙面調査 ヒアリング
	公私立幼稚園・保育園・認定こども園	3 3 園	
	子育て支援事業所、児童発達支援事業所等	1 4 カ所	
(3) 当事者 ヒアリング	児童養護施設 入・退所児童	2 4 人	ヒアリング
	高校生 (生徒のみ)	1 6 人	座談会方式にて聞き取り
	大学生 (学生のみ)	5 人	座談会方式にて聞き取り

(1) 子どもの生活に関する実態調査

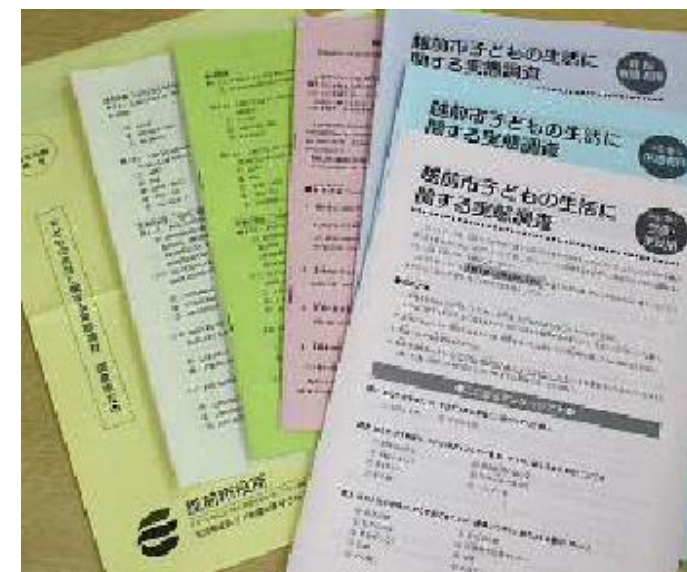
- ①調査対象
- 保護者・・・小学5年生、中学3年生の保護者
幼稚園、保育園等の年長児の保護者
 - 子ども・・・小学5年生、中学3年生
- ②調査方法
- 小中学生の家庭・・・郵送配布。子どもは専用の封筒に封印して、保護者の回答用紙とともに、返信用封筒に入れてポストへ投函。
 - 年長児の家庭・・・所属園を通じて保護者へ配布。返信用封筒に入れて、園へ提出。

③調査期間 平成30年5月28日(月)～6月11日(月)

④回収状況

	配布数	有効回答数	回収率
保護者	2, 276世帯	1, 543世帯	67. 8%
子ども	1, 598人	979人	61. 3%

⑤その他 アンケート用紙は、日本語版とポルトガル語版を作成



⑥主な調査項目（保護者用）

1 調査世帯の状況	世帯構成、世帯人員、18歳未満の子どもの人数
2 経済状況	年間の手取収入、現在の暮らし向き、経済的理由による経験、子どもの将来のための貯蓄、教育費の中で負担が大きいと感じるもの
3 保護者の状況	保護者の就業状況、保護者の最終学歴、保護者の過去の辛い経験、保護者の健康状態、子育てに関する悩み、相談相手
4 子どもの状況	登校状況、子どもの成績、子どもの家庭での学習時間、子どもに対する最終進学先の希望、子どもの塾や習い事の状況や費用、
6 子どもと家族の関係 (家庭で心がけていること)	規則正しい生活習慣、毎日の朝ごはん、本や新聞を読むようにすすめる、将来や進路について話をする、勉強を教える、会話の時間をもつ
7 学習支援のニーズ	学校や自宅以外の居場所の利用希望、利用頻度

⑥主な調査項目（子ども用）

1 放課後の過ごし方	誰と過ごす、どこで過ごす
2 学校での楽しみ	授業、友達に会うこと、休み時間、給食（昼食時間）
3 学校の授業・勉強	授業以外の1日の勉強時間、自宅で勉強が集中してできる場所、授業の習熟度、勉強がわからないときに聞く相手、
4 進学について	最終進学先の希望
5 塾や習い事	塾や習い事の有無や内容、やってみたい習い事
6 将来の夢・目標	夢や目標の有無、なりたい職業等
7 家庭・家族について	帰宅したときの安心感、家族との会話頻度、会話時間の満足度
8 悩みや心配ごと	悩みや心配ごとの内容、相談相手
9 学習支援のニーズ	学校や自宅以外の居場所の利用希望、利用頻度

(2) 関係機関調査

- ①調査対象 市内全域の小中学校、幼稚園、保育園、認定こども園、子育て支援センター、一時預かり事業所、家事支援サポート事業所、病児保育事業所、児童発達支援事業所、放課後等デイサービス事業所等
- ②調査方法 ●郵送やメールで配布 56 箇所
●直接ヒアリング 13 箇所
- ③調査期間 平成30年7月中旬～8月末
- ④回収状況 配布数69箇所 有効回答数69箇所（回収率100%）
- ⑤主な調査項目 困難を抱える子どもやその家庭について
- ・ 子どもの状況（不足している点、特徴や課題を記述）
 - ・ 子どもの保護者の状況（特徴や課題を記述）
 - ・ 支援する上で困っていること
 - ・ 必要な支援内容
 - ・ 支援をする際に工夫していること、心がけていること

(3) 当事者ヒアリング調査

①調査対象			②調査方法
A	児童養護施設 入所・退所児童 (中学3年生～26歳 24人)		個別にインタビュー方式で聞き取り
B	高校生 (外国籍生徒含む)	16人	2～3人ずつ座談会方式で聞き取り
C	大学生	5人	全員で座談会方式で聞き取り

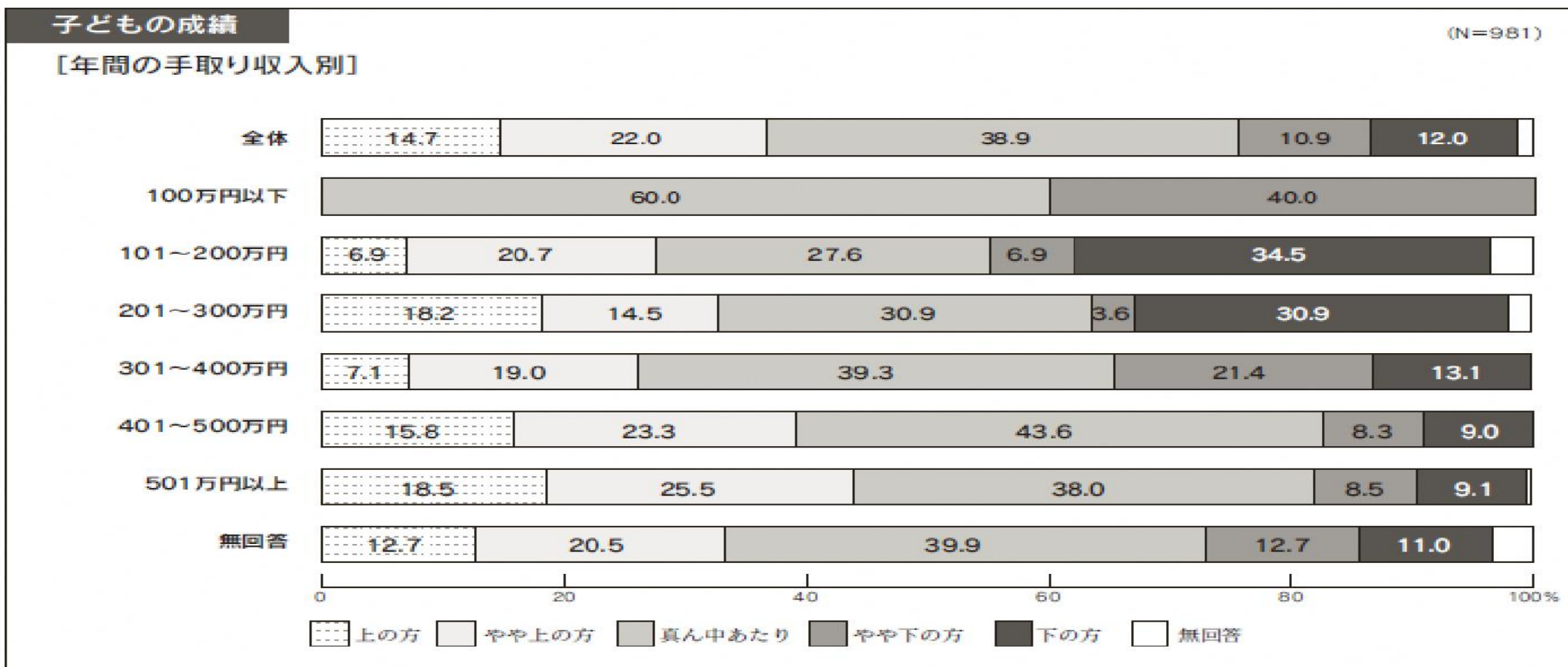
③主な調査項目

- ・放課後の過ごし方、楽しかったこと (小中学生の頃、現在)
- ・ほっとできる居場所
- ・学校での楽しみ
- ・宿題をする場所、勉強がわからない時に聞く相手
- ・悩みごとの内容、相談相手
- ・アルバイトについて (内容、頻度、アルバイト代、アルバイトをしている理由)
- ・進路について (将来の夢、高校を選択した時の気持ち)
- ・ロールモデルについて
- ・自分の進路を後押しするためにあると良いと思うもの

(4) 調査結果の分析

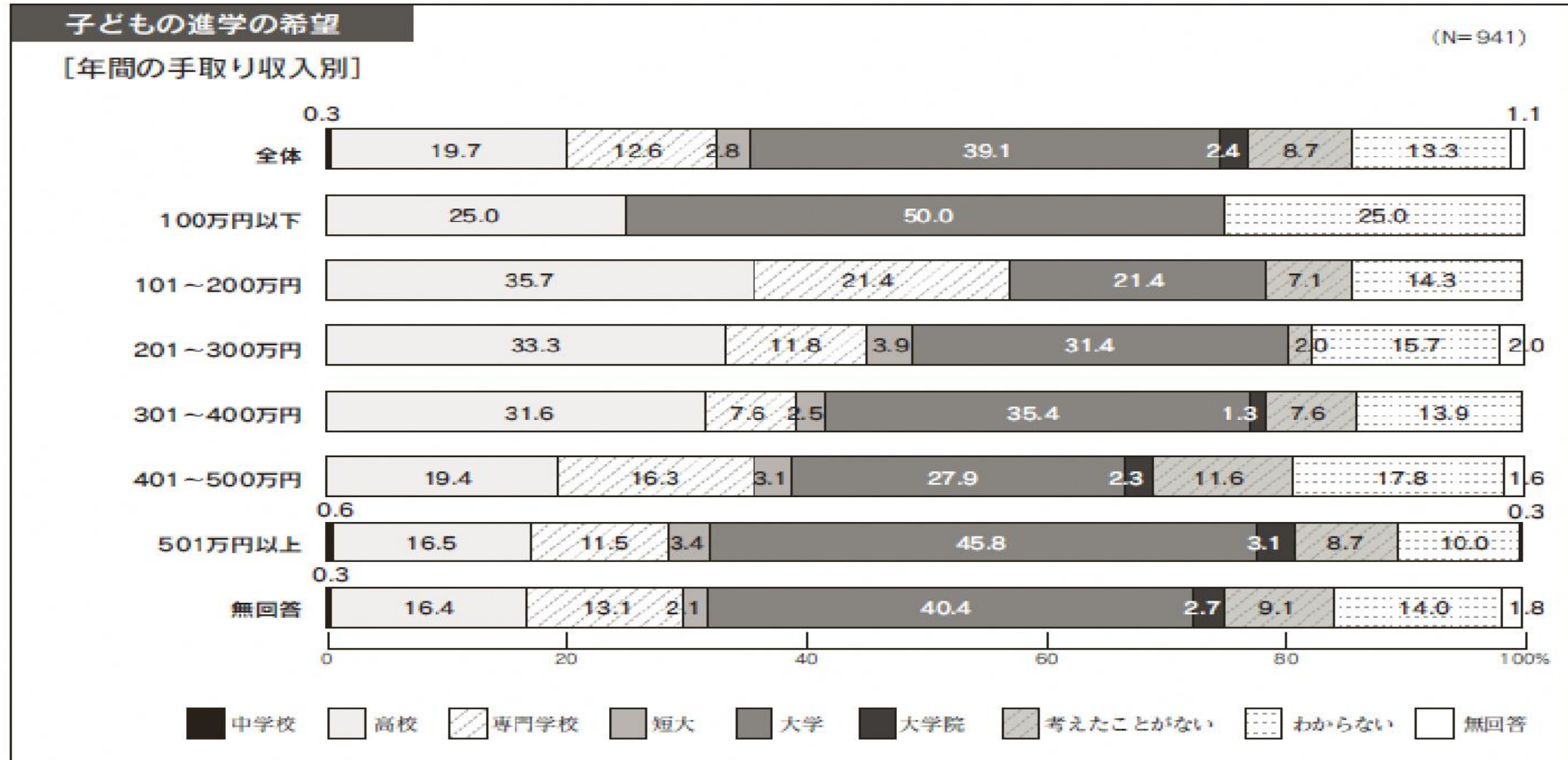
① 子どもの成績

子どもの成績は年収が高い世帯ほど「上のほう」「やや上のほう」と回答する割合が高く、年収が低い世帯ほど「下のほう」と回答する割合が高くなっている。



② 進学先の希望

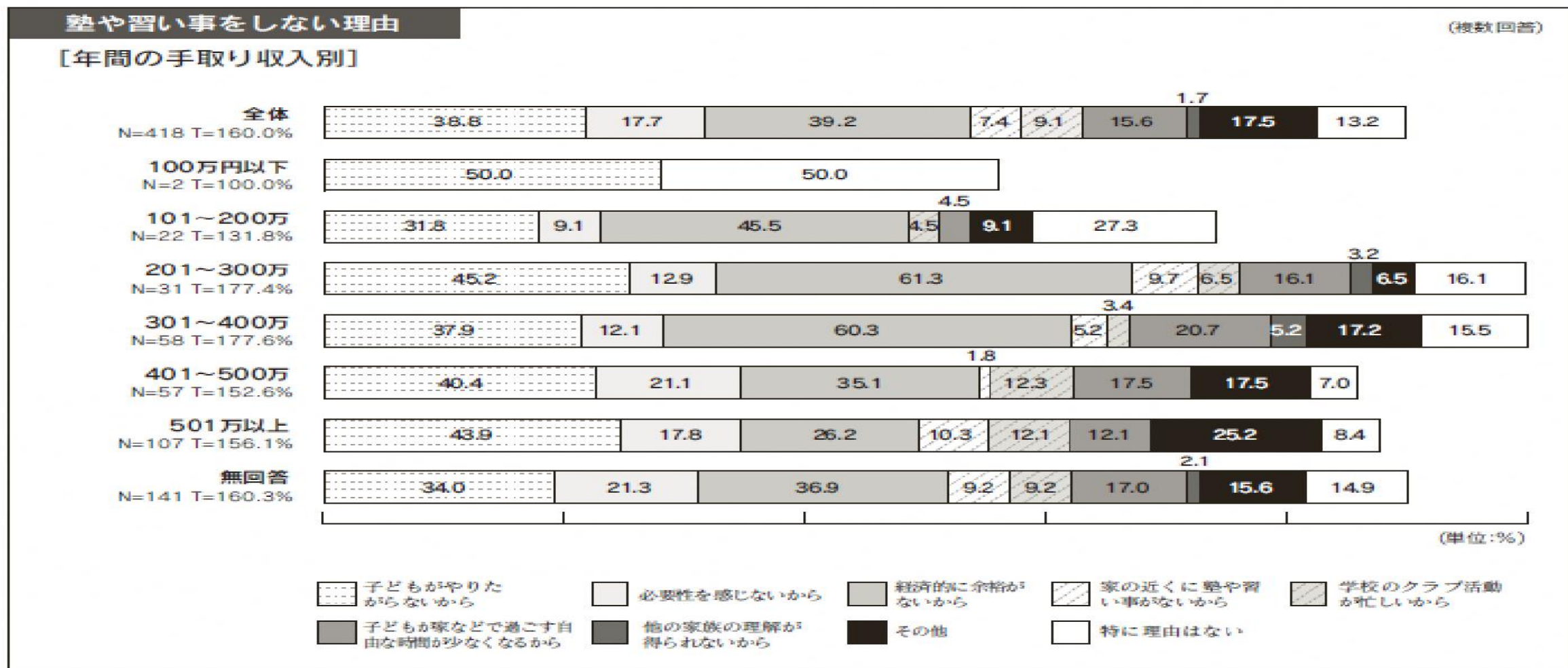
進学先の希望については、年収が高い世帯ほど「大学」と回答した割合が高く、年収が低い世帯ほど「高校」と回答した割合が高くなっている。また、両親の最終学歴と子どもが希望する進学先の関係は、親の学歴が上がるにつれて、子どもが「大学」と回答する割合が高くなっており、全体的に親の最終学歴よりも一段階上の学歴を希望する傾向がみられる。



③ 塾や習い事の状況

塾や習い事の状況については、全体で70%の世帯が何らかの習い事をしている。

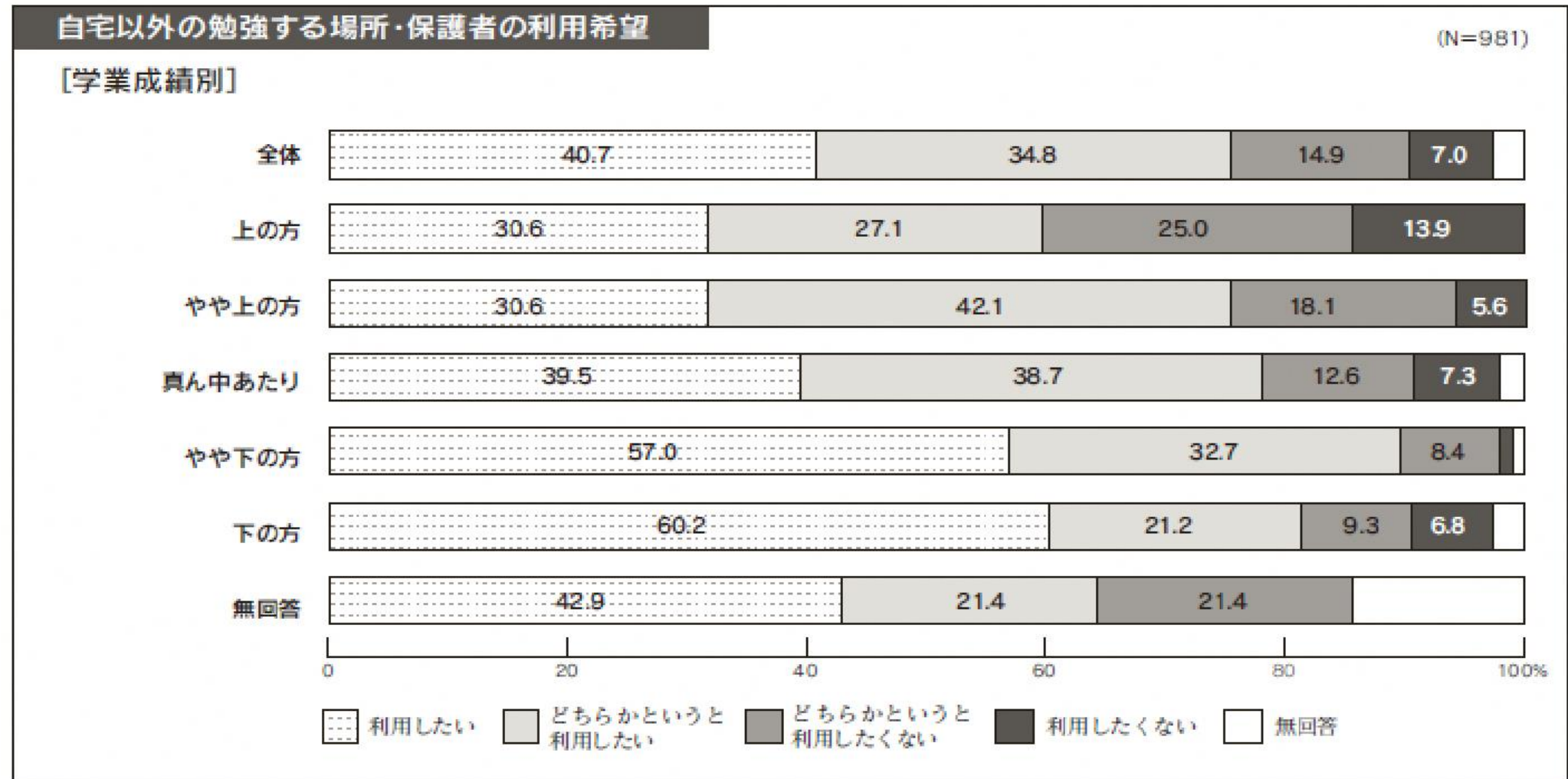
塾や習い事をしていない理由として、「経済的に余裕がないから」と回答している世帯が、年収が低い世帯で高くなっている。また、年収が高い世帯は「英会話やそろばん」「音楽や習字、絵画など」、より教養を高める習い事をしている傾向がある。



④ 学習支援のニーズ

学習支援のニーズについては、保護者の回答は、世帯収入に関係なく、「利用したい」「どちらかという」と回答した割合が70%を越え、特に子どもの成績が「下のほう」「やや下のほう」と回答した保護者の利用意向が非常に高くなっている。

しかし、子どもの回答は、授業の理解度が「ほとんどわからない」と回答した子どもや年収が低い世帯ほど「利用したくない」と回答した割合が高くなっている。

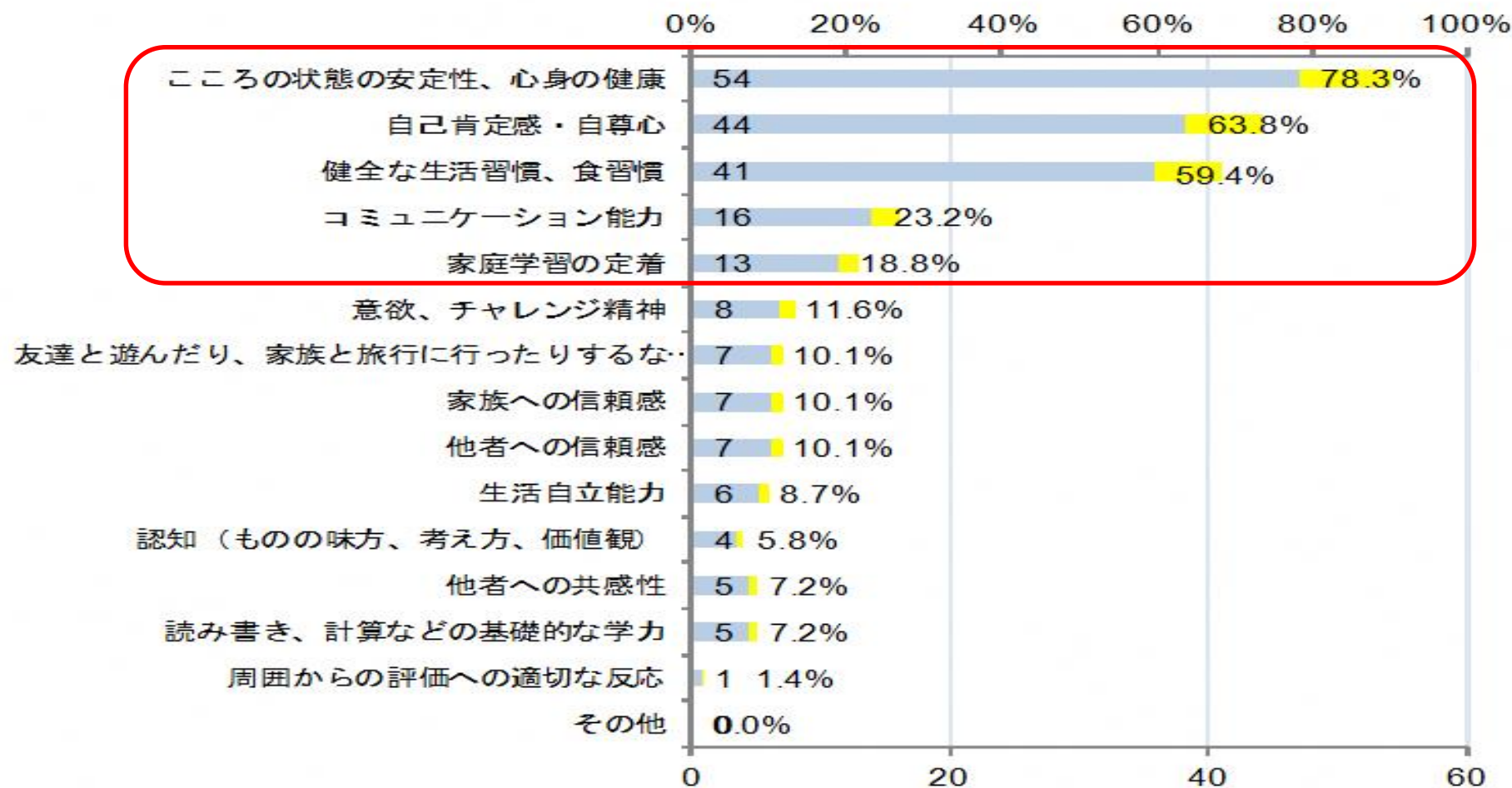


⑤ 子どもたちの基本的な生活習慣・学習習慣等

関係機関調査によると、困難を抱える子どもは、基本的な生活習慣や学習習慣が身につけにくいほか、子どもの心身の健康や自己肯定感、コミュニケーション能力にも影響を及ぼすと考えられる割合が高くなっている。

問4 これまでの経験から見て、困難を抱える子どもは、どのような面が不足している(または不足する可能性がある)と思いますか。主なものを3つ選んで○をつけてください。

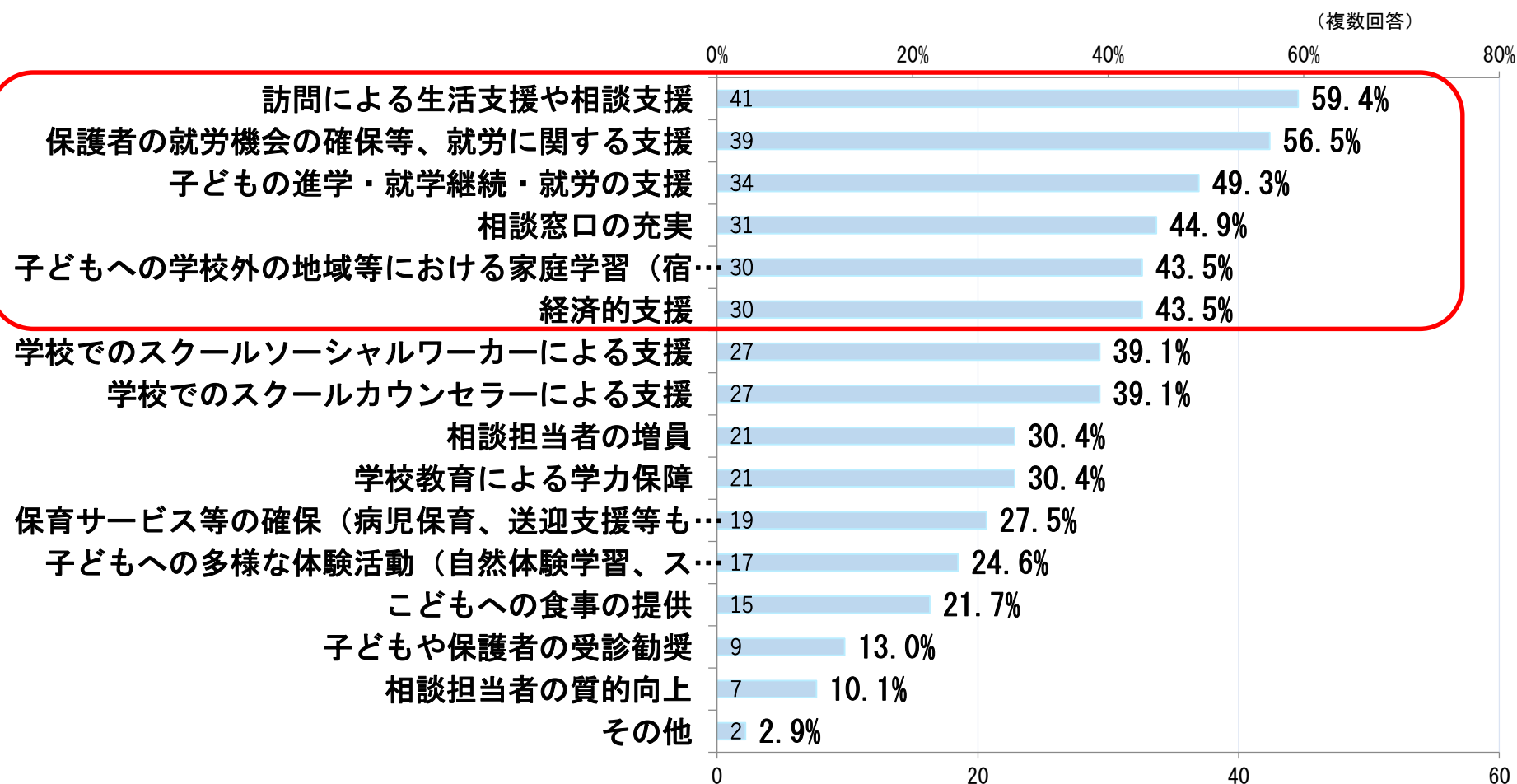
(複数回答)



⑥ 子どもたちに必要な支援

関係機関調査によると、困難を抱える子どもやその家庭に対し必要な支援として、「訪問による生活支援や相談支援」が最も高く、次いで「保護者の就労支援」、「子どもの進学支援」、「相談窓口」、「学校外の地域における家庭学習支援」等の回答が多くなっている。

問8 貴機関・団体は、一般的に、困難を抱える子どもやその家庭に対し、どのような支援が必要だと思いますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。



⑦ 児童養護施設入所、退所児童の意見

- ・ アルバイトをしている高校生が多く、スマホ代の支払いや将来のために貯金をしたりする生徒が多い。
- ・ 小中学校までは「夢」的な将来の夢があったが、高校からは現実的なところで進路を考える子どもが多い。
- ・ 大学進学を考えている子どもは少ないが、専門学校への進学を希望する子どもはいる。が、費用が課題となっている。
- ・ ロールモデルをもたない子どもが多い。
- ・ 将来の進路を後押しするには「お金」が必要と考えている子どもが多い。

⑧ 高校生の意見

- ・ アルバイト代を家計に入れたり、将来のために貯金をしたりする生徒が多い。
- ・ ロールモデルが有名人であったり、いないとする生徒が多い。
- ・ 卒業後の進路は、プロの○○や海外に留学など、現実との乖離が？と思われる生徒がいる。
- ・ 奨学金制度について知ってはいたが、返済のことを考えると積極的に借りてまで進学したいとは思わないとする生徒がいる。

4 施策の方向性

(1) 子どもへの支援

①放課後のさまざまな居場所の確保

生活習慣の獲得や学習習慣の習得、そして、基礎学力等を身につけるための支援
社会経験や交流体験ができる環境整備

②子どもが家庭の経済状況により、進学や就職をあきらめることのないような支援

(2) 家庭への支援

①家庭生活の安定を図る支援

保護者の雇用や収入の安定
養育力の向上

(3) 地域全体の支援

①支援を必要としている家庭に対して、相談から支援へ速やかにつなげていくための コーディネート体制の更なる充実

②地域住民による地域力の強化

③行政・民間支援機関等の連携強化

5 越前市子どもの未来応援計画の概要

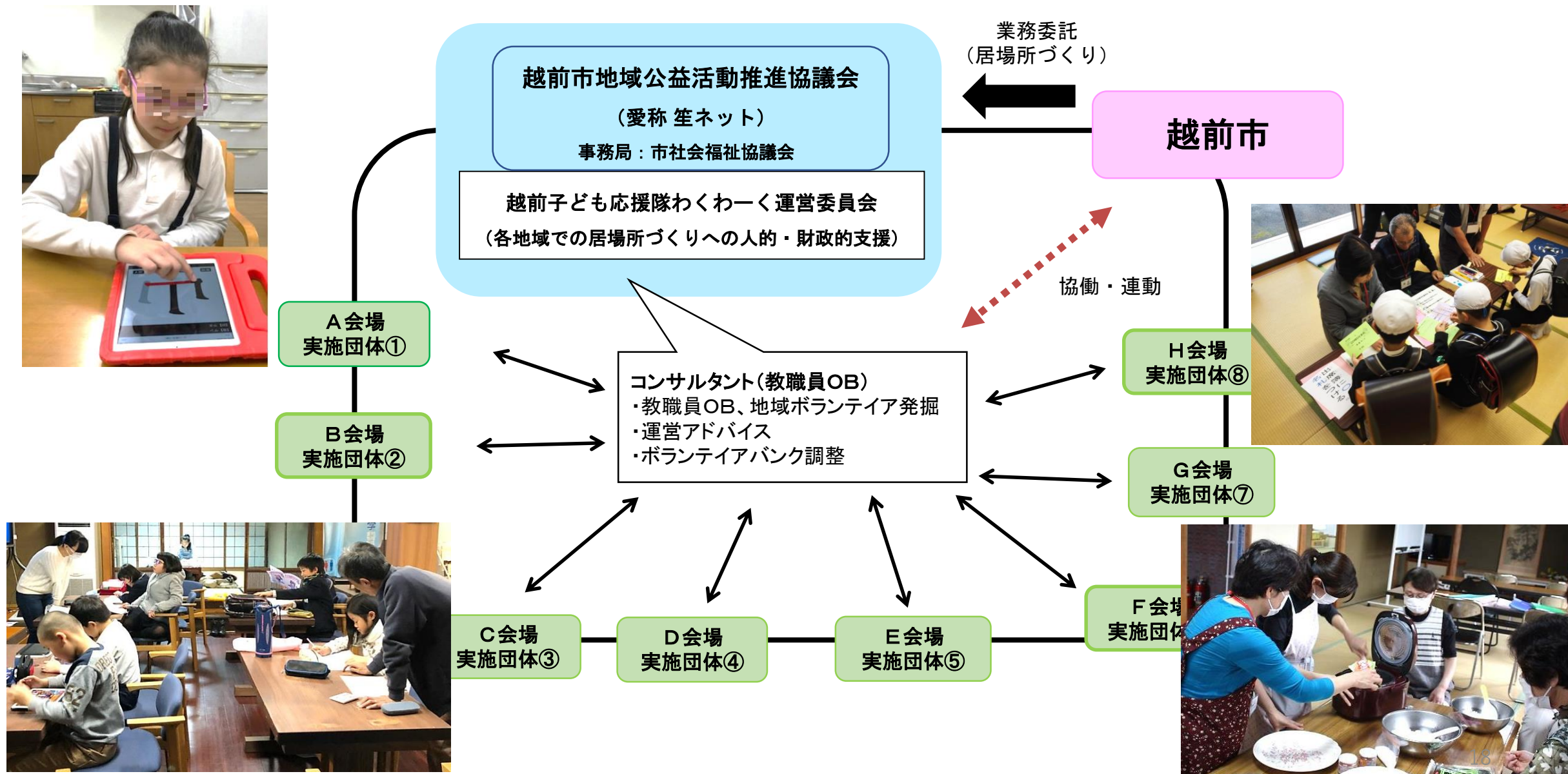
【基本的な考え方】

- ①子どもに視点を置いた切れ目ない支援
- ②子どもと家庭の生活支援
- ③支援につながる相談体制の強化
- ④ひとり親家庭など特に支援の必要度が高い子どもへの重点的支援

【具体的な施策の展開（主なもの）】

基本施策Ⅰ 子どもへの支援	①子どもの居場所づくり(家庭学習支援)事業 ②ひとり親家庭、生活困窮世帯の子どもへの学習支援事業 ③「家庭支援員(仮)」の配置検討
基本施策Ⅱ 経済的支援	①子ども医療費窓口無償化 ②病児保育、学童保育利用料減免、高校生の通学定期代の助成
基本施策Ⅲ 生活・就労支援	①妊娠期から子育てにわたる相談・支援（子育て世代包括支援センター等） ②要支援（施設退所）青年等の集いの場づくり事業
基本施策Ⅳ 支援につなげるしくみ	①地域住民による地域力の強化（町内福祉連絡会、地区福祉ネットワーク会議） ②養育・里親制度の周知・活用強化（里親制度等活用環境整備事業）

6 子どもの居場所づくり(家庭学習支援) 事業





社会福祉法人が一丸

第1弾、子ども居場所支援

地域の福祉活動に協力して取り組もうと、越前市内外の社会福祉法人が、市地域公益活動推進協議会（以下、協議会）を設立し、地域での活動の連携を図る。協議会では、市内全体的な取り組みの企画立案、事業運営などを行う。協議会の設立は、市内全体的な取り組みの企画立案、事業運営などを行う。協議会の設立は、市内全体的な取り組みの企画立案、事業運営などを行う。

越前市課題解決へ新組織

ファイ幼生 命の“小銀河”



越前市地域公益活動推進協議会

「笙ネット」

- 会長：賛同する社会福祉法人の中から選出
- 会員：賛同する社会福祉法人(会費制)
市内の全事業所19法人が参加
- 事務局：越前市社会福祉協議会

地域公益活動の実施

- 既存の制度では支援が受けられない課題解決
- 行政等による制度化までに時間がかかる課題解決 等

【事業運営主体】

- ・資金管理機能
- ・事業や取組みの企画立案、事業運営

わくわく運営委員会

- 子どもの居場所づくり
- ・学習支援拠点運営支援
- ・拠点の創出活動

よりそい運営委員会

- 引きこもり支援の調査研究

〇〇運営委員会

- その他の事業については検討中